



河内町 菊田 浩美 さん(46)

# 受け継いだ農園 父の思いをつなぎ、新たな道を開く



河内町の菊田浩美さんは、父の政文さん(71)が始めたブドウ園を受け継ぎ、経営者となりました。政文さん直伝の栽培法で農園を守りながら、前職のアパレル業界で培ったノウハウを生かし、農園の新しい在り方を模索しています。新規事業として、8月13日には直売所内にティクアウト専門のカフェをオープンしました。河内町を盛り上げ、訪れた人を笑顔にする観光スポットを目指します。

アパレル業界で販売に携わり、「お客様に喜ばれること」をモットーに働いていた菊田さんは、自分が作ったもので人を喜ばせたいと考えるようになりました。そんな時、生き生きと仕事をする政文さんの姿が思い浮かび、農業が自分の夢と合致していることに気付きました。政文さんが高齢になつたこともあり、後継者として農園を継ぐことを決意。2021年の11月に本格的に事業継承しました。

カフェはブドウの販売期間になつたこともあり、後継者として農園を継ぐことを決意。2021年の11月に本格的に事業継承しました。

栽培は政文さんに教わりながら、一緒に作業しています。これから、規格外や出荷できないうちに、露地30ルートなど約20種類を500本栽培。根の範囲を制限して育てる根域制限栽培を用いることで、水と肥料を理想的な状態で管理し、糖度や酸味のバランスが良い高品質なブドウ作りにこだわっています。

ブドウは「慈甘（じかん）ぶどう」という商標で販売しています。父が「丁寧に慈しみを込めて育てる」との思いを込めて名付けたブランドを引き継ぎました。ブドウは直売所で販売する他、8月上旬から10月下旬まで、JA産直市「となりの農家」や「元気市」、西条や福富の道の駅などへ出荷しています。



▲根域制限栽培のブドウ畠



▲ぶどう酢サイダー



▲藤稔 (ふじみのり)



▲直売コーナー



▲カフェスペース

食品ロスを減らしたいという思いから、規格外や出荷できないブドウを活用しています。30、40代の女性をターゲットに交流サイト（SNS）を使った情報発信にも力を入れています。ロゴマークも、女性

らしいデザインに新しました。菊田さんは「今も昔も、訪れた人に喜んでもらいたいという思いは変わらない。女性ならではの観点で農園を広めることで、河内町を盛り上げたい」と話します。